平成23年度　元気な地域づくり 活動報告会

平成24年１月25日（水）13:30～16:00
横浜市健康福祉総合センター　４階ホール

◎意見交換

・コーディネーター
山路（やまじ） 清貴（きよたか）さん（まちづくりコーディネーター）

・発表者

【港南区野庭及び周辺地区】
勝山（かつやま） 淑子（よしこ）さん（野庭をあ・じ・わ・う企画スタッフ代表）

【港北区菊名の未来を考える会】
漆原（うるしばら） 謙二（けんじ）さん（菊名の未来を考える会　会長）

【栄区公田町団地地区】
有友（ありとも） フユミさん　（特定非営利法人 お互いさまねっと公田町団地 専務理事）

〇山路　よろしくお願いいたします。１時間強の時間ですけれども、色々なことを深く掘っていきたいと思います。

実は、今バタバタして、まだ私の頭の中で混乱しています。こんなにたくさん質問を頂きまして、とても全部に答えられませんが、議論を絡ませるような話をたくさんしようかなと思っていた方針を急きょ変えて、それぞれの事例を深掘りしていく、事例研究とまではいきませんけれども、各事例の中身をさらに御紹介いただくと、この質問にも答えられますし、今日のポイントを分かっていただけるかなと思いました。ですから、できるだけ質問の数を多くこなしながらやっていきたいと思います。

最後に少し時間があれば、私の役割が「コーディネーター」となっていますので、私としての感想をまとめとして申し上げられればと思います。

それぞれの会を代表して３名の方に壇上に上っていただいていますけれども、「全て自分で答えるのは荷が重いよ」という話が必ずあるので、自分よりも会場にいる仲間のほうが詳しい内容については、指名してその人に発言していただくよう各パネラーにはお願いしてありますので、ここに並んでいる方と顔見知りの方、もしかすると指名されるかもしれないということだけは御了解ください。このようなルールで進めていきたいと思います。

最初に、一つ二つ、共通の御質問だと思われるものがあります。主要なメンバーというのは大体何人ぐらいで、どのような顔ぶれ、どのような背景を持った人たちがコアスタッフとしているのか、その辺を詳しく教えてほしいという質問がけっこう多く来ております。発表順で申し訳ありませんが、野庭の勝山さんから、「野庭をあ・じ・わ・う」の場合、「地域スタッフ」とさきほど御紹介がありましたが、どのような方々か御紹介いただけますか。

○勝山　野庭地区センターを中心に、野庭地域ケアプラザの方、保育園の園長先生、コミュニティールームの「ここ」の所長や、もちろん港南区役所の方、野庭団地に長い間一緒に暮らしている私の身近な仲間もいます。それから私が野庭地区センターで勤めていたときに出会いました、素晴らしい先生。それぞれ食の達人、地域の達人、それから、愛護会。自然を、野庭の自然を守るというような愛護会の方たちもいますので、その方たちにも声をかけました。初めは少なかったのですが、講師という形でお願いして、最終的には一緒に企画スタッフという形で十四、五名おります。

○山路　今出てきた「ここ」というのは任意に、空き店舗を使った地域のたまり場です。元地区センターの職員をしていた方々、コミュニティースタッフだった方々も何人かいるというのは、特徴的ではないでしょうか。

○勝山　地区社協の代表をしていらっしゃる方も入っておりますけれども、あまり肩書としてではなくて、企画スタッフの一人として入っております。もちろん代表ということではありませんが、地区社協や連合のことをよく知ってらっしゃる方、お話してみて、地区社協に所属しているのだと気づく方ももちろん仲間ですので、私たちはそういう広がりがあったということはとてもうれしく思っています。

○山路　誰でも入れる。ただ、個人として入っている。気がついたら会長だったという感じですね。

○勝山　はい、そうです。

○山路　次に漆原さんですが、きっかけは個人の思いから、仲間二、三人から始まり、だんだん広がっていったということですが、現在コアスタッフがどのくらいいるのか、どのように広がっていったのか、どのような人たちがいるのかなどを御説明いただけますか。

○漆原　私は今年で 48 歳になりますが、菊名に戻ってきたのが 30 代後半ぐらいでした。うちは家業ということで、自営業で理容、床屋をやっていますが、２代目と言われる世代の人たちが戻ってきたとき、単純にどういう状態なのかなということで話を聴き始めましたので、スタッフとしてはその辺の話がしやすい、商店をやっている２代目などと少しずつ話をするようになりました。スタッフというのは先ほどもお話ししましたが、商店街や町内会などの枠を超えた形の会ですので、先ほど情報の交換がスムーズにできるようなということで、一般の菊名に住まわれているサラリーマンの方も少し入ってきていただいて、実はそのまちでずっと長いこと自営業を行っていると、なかなか外の情報というのは入りにくく、井の中の蛙的のようなところもあるようで、菊名に住んでいる方で外に仕事に行っている方も含めて、ほかの地域ではこういうことが起きているなどというようなことを話すこともありました。

　コアのスタッフの人数は、現役世代の者が多いですが、大体 10 名弱ぐらいです。あとはコアと言いますか、周りに関わる学校の生徒や、マンパワー的なところは学校と連携して行っているような状態です。

○山路　10 名弱ぐらいであれほどの活動ができるということですか。

○漆原　はい、かなり大変なところもありますが、やっております。

○山路　コアの人が 10 名ぐらいで、プラスの応援団的な人もけっこういるということですか。

○漆原　コアの人が 10 名ぐらいで、あと、周りはそうですね、まあ 10 名ぐらい、だから全部で 20 名ぐらいになります。

○山路　活動が広がるのは、どうも人数の多さだけじゃなさそうですね。その辺の秘訣も後で聞きたいと思います。有友さんのところも、先ほど大体の人数をお聞きしましたが、構成のようなものも含めてお願いできますか。

○有友　はい、一番基本になっているのは、行政から話があったときのタウンミーティングのお話を５回した中で、一緒に活動しようという方が 75 名ほど集まりました。その中でボランティア研修などを行いながら、最終的に残ったメンバーが 29 名いました。最初にあおぞら市をやろうと言ったメンバーがそこにいます。そのあおぞら市をやりながら、私たちは本当にこういったことまでできると思っていませんでした。拠点で活動をするようになってから、そのメンバーが主体になって活動を支えていますが、調理の部門は５名がローテーションで行い、賄ってくれています。あと見守り支援員と８名プラス民生委員についても、初期のメンバーの中におります。あとあおぞら市やイベントの手伝いにボランティアが来てくれます。そういったときのボランティアさんも含めますと、25、6 名で活動しております。

○山路　男女の比率や年齢構成はどうですか。

○有友　断然、女性が多いです。男性は４、５名です。もっと男性の方に、参加していただきたい。

○山路　それも割とベテランの方が多いって感じですか。

○有友　はい、そうです。佐藤が一番若いぐらいです。

○山路　では、おして知るべしでございますが。では、漆原さんのところの男女比はどうでしょうか。若いと勝手にイメージしていますけど、年齢、バラつきなどはどうですか。

○漆原　先ほどのコアのスタッフということですと大体、私が一番上の方です。30 代の中ぐらいの者が一番下です。女性で私より少し年輩の方がいらっしゃいますが、7 割ぐらいは男性です。

○山路　次に多い質問として、担い手をどう確保するかということにあちこちの地区が四苦八苦しているようで、どう見つけているのか、どう増やしているのかという質問がたくさんあります。続けて漆原さん。人材確保について、そういう努力は何かありますか。

○漆原　もともとの会のテーマがつながりであり、こういう横のつながりも含めてやはり継続していくことがすごく大事だと考えています。先ほどもお話ししたように、学校は毎年生徒が替わるので、継続性を持つことと、地元の学校はやはり地域に守られる必要があるため、学校もすごく参加しやすいということで、スタッフとしてはその学校の生徒、ゆくゆくは生徒会が中心になって活動の中心的になってくれればとは思っています。

　あとはイベントに直接参加された方が「参加してみたい」ということで、少しずつですけども、活動に加わっています。

○山路　漆原さんは現役ですが、現役世代を地域活動に取り込むことが大変だっていう思いが皆さんにあるようですけれども、漆原さんはそういう意味では変わり者なのでしょうか。あるいは、菊名では、割とそういう人は何人かいるのでしょうか、漆原さんが無理やり後輩を連れてきているのでしょうか、その辺も含めてちょっと深く知りたいのですが。

○漆原　変わり者かどうかは、本当は仕事してなければいけない時間に、ここにいるのが変わり者かもしれない。両親がやっているので、今のうちにできることはやっています。どうしても自営でやってらっしゃる方はどうしても時間帯と休みが違うので、何かの集まりをやろうと思ったときにどうしてもバラつきがあり、なかなか難しい面があります。

○山路　集まる時間の工夫が必要だってことですか。周りにはほかにもいそうな感じはしていますか。

○漆原　はい、何かこうやっていますと、そういう感じの雰囲気の人はやはり何人かいるので、そういう方と少し深く話をしてみるなどしています。

○山路　ということは、可能性はまだありそうだなと思っていらっしゃるわけですか。

○漆原　はい、あると思ってやっています。

○山路　ありがとうございます。次に勝山さん、同じスタッフのことですが、最初からいた企画スタッフの数、それから講座に応募され２年目にスタッフに加わった方の数、男女比、言いづらいでしょうが年齢も含めてお願いします。

○勝山　言いづらいです。ここにいらっしゃる方の年齢、お二人いらっしゃいますが、年齢不詳でございまして。年齢は私が一番高いのではないかと思います。

　初めは男性の方はいらっしゃいませんでした。役所関係と地区センターの方以外は、女性だけでしたが、やはり男性に企画チームに来ていただきたいということで、講座も含めてどのようなものがいいのかなということを考えました。

　まず一つは、「メルヘン料理教室」という男性だけのお料理教室がありまして、そこの方たちにも手伝っていただきまして、その中で、こういう表現は申し訳ないですけど、一本釣りのような形で、興味を持ってらっしゃる方とお話ししました。

　それから、男性は歴史が好きな人が多いです。歴史だとすごく集まるというような情報も色々聞きまして、講座の中に歴史講座を入れ、やはり第１回目、２回目は男性の集まりがとても多かったです。残念ながら残る方は少ないのですが、それでも合計４人の男性の方に、最終的に参加していただきました。

○山路　今、歴史をテーマにすると男性が参加しやすいというお話がありました。ここからは活動の中身の話をしましょう。三つの事例はそれぞれ大変幅広く、活動の種類としてものすごく多くのことをそれぞれやっていらっしゃいます。それを割と少ない人数でうまくやられているということは、私にとっては驚異です。どうやってこんなに幅広にやれるのかこんなことをやると、こんな人たちが興味を持ってくだるなど、発表の中でもどこかにあった気がしますが、活動の中身と対象について、更に勝山さん、ヒントを教えてください。

○勝山　保育園で「だがしや楽校」を行ったときに、男性の方は何か物を作るのがとても上手でした。紙相撲、割り箸鉄砲、そういうものも作ってくださいますし、それからペットボトルで遊ぶ道具も作ってくださいまして、そういうものを、お一人ずつそれぞれに持ち分を持っていただき、そして子供と遊ぶことによって、子供の姿や笑顔に引きずられて、帰るときなんかお手々つないでニコニコしながら帰って、そのほんわかな気持ちがとても良かったということをお話くださいました。子供と高齢者は、とてもいいつながりじゃないかなと思って、そういう講座を割と多く、それから地域にも保育園とか幼稚園がありますので、そのような講座を意識的につくっております。

○山路　子供と接する、実際に手をつなぐとか、そういう体感的なものでしょうか。実際、物をつくるものも、割と口下手な男性にはそちらのほうが入りやすいといった感じもあるのでしょうか。

○勝山　女性より男性のほうが実際喜んでらっしゃった様子を、私はお見受けしました。

○山路　けっこうガキ大将の人たちなのかもしれませんが、割と懐かしいことですし、得意技を発揮するということかもしれないです。次に、漆原さん「こういうことをやると、こういう人たちが集まる」ということは何かございますか。

○漆原　先ほども発表の中でお話しさせていただきましたが、イベントをやるときにやはりマンパワーというのはすごく重要なポイントであり、その中で学校というのは 400 人とか 500 人とかすごく人数的に多いので、私たちが１週間かかるところを、本当に三、四時間でやってしまいます。特に、学校が地域と連携、参加しやすいテーマとして、地域社会貢献活動と環境ということで、七夕のときには、学校で、市立の学校はボランティア活動が単位になるということで、そういったタイミングが合いまして、短冊を毎年私たちスタッフ 10 人ぐらいで作っていましたが、今年はある学校にお願いをして、 8,000 枚というものを加工してもらいました。もともと私たちスタッフの中で 3,000 枚を作るのに１週間ぐらいかかっていましたが、その学校にお願いしたところ、ほとんど三、四時間ぐらいで終わってしまったということもありました。

　また、笹を各店舗に置く際も、学校の生徒に運んでいただくということになり、70 店舗ぐらいをあっという間に終わったということで、そういう意味では学校の生徒の方と連携をするということでやりました。その中で、年間の行事の中で農業体験とかコンサートとか、色々なものがありますが、それぞれ興味があるものに人は参加をしたいということだと思いますので、農業体験のときには農業のことをしたいという方が中心になってやっている感じです。

○山路　学校にそういう協力を得られるためには、何か特別な強みはありますか。

○漆原　全然なかったです。ほとんど飛び込み状態です。

○山路　そのときの何かくどき方はありますか。

○漆原　いや、もう熱さだけでしょうか。

○山路　ＰＴＡ会長をやっているとか、そういうこともないわけですか。

○漆原　全然ないです。

○山路　何年かやっていると信頼関係といいますか、ツーカーの関係になってきているのですか。

○漆原　いや、まだまだです。

○山路　飛び込みでもちゃんと伝わるっていうことがあり得るということですか。

○漆原　ええ、そうですね。それまで、実績がない状態で行きますので、やはり「これはどういう活動をしていきたい」とか、映像を含めて「こんな活動をしている」とか、地元の学校から先に中心にしていって、少しずつ関わる学校を近隣に増やしているというような状況です。

○山路　ありがとうございます。次に有友さんのところでは、男性に来てもらうのにマージャンが良いというお話がありましたが、ほかに何か傾向はありますか。

○有友　はい、スタート時は２卓でしたが、今は４卓と盛況です、その中でＮＰＯの会員になってくださり、友達を介して遠方からの参加者もおります。

　別のテーブルではトランプゲームで賑わい木曜日の午後は元気な声が飛び交います。

○山路　何か今の３人の共通的なことを探ると、体感的なこと、体を動かしたり、イベント型だったりしています。さらには年中行事のようなものに関係しています。そうした傾向が強いのでしょうか。公田町団地はいかがですか。

○有友　この４月で２年目になりますが、季節の行事をできるだけやっていこうということで、イベントを年間行事の中に入れ込んでいます。例えば豆まきは自治会主催でやるので、内輪み

たいなものになっていますが、夏祭り、ひな祭り、先ほどコイノボリの話もしましたが、５月のこどもの日、お月見のときのコンサートや６月～９月の第３土曜日定例のビアガーデンなど、年間行事の中に色々なイベントも盛り込み多世代が楽しめる企画を話あっています。

○山路　定例的に月１回ぐらいをコンスタントにやっていくのですか。

○有友　はい、第３火曜日に行います。やはり、もっと若い人向けのイベントもしなきゃいけないよねということは思っています。

○山路　定例会で新しいアイデアが出てきて、それを「次どうしようか」という、そういう感じで選ばれていくというか、練っているということですね。

○有友　どういったことをしようかというのは運営会議で決まります。

○山路　漆原さんのところは、何か行おうとする場合、どのようにして決めていますか。定例会のようなものはあるのでしょうか。

○漆原　月に１回、定例会という形でやっております。

○山路　ほかにも何かありますか。大体そこで決まるのですか。

○漆原　月に１回程度ではほとんど決まらないので、当然、その間にコアのスタッフで、近所なので、「ここはこういうふうにしていこうか」という話し合う場をもって、定例会で、最終的に決めるというようなやり方をしています。

○山路　野庭の場合は、企画会議は定例会化しているのか、進捗に合わせてやっているのか、講座と企画会議の関係を説明いただけますか。

○勝山　私たちは大体月に１回です。自由人もいらっしゃいますけれども、皆さんそれぞれスケジュールを持っているのでとても大変ですので、前もって決めて、月に１回は定例会を開いています。開催するに当たりましては、多少変動することはあります。平均すると月に２回になってしまうこともありますし、もちろんその行事によって、不安があればもう一回会議を持たないかということは話し合って決めたりしています。皆さんベテランではないし、また、みんな寄せ集まって色々考えるとまた楽しいことが浮かびますから、常時、定例会は月に１回以上必ず持ち、そして不安であればもう１回持つというようなことを心積もりしてやっております。

○山路　月１回のペースは最低限という感じでしょうか。その間に実際の行事が入ったりするわけですから、結局、月２回以上はやっている。菊名はけっこう色々なことやっていますが、行事は二、三か月に１回程度でしょうか。

○漆原　大きいイベントは、三つぐらいですが、ペットボトルのキャップ集めなど細かいものも意外とあり、ならすと１か月半に１回ぐらいのペースです。

○山路　そうしますと、月に２回ぐらいは何か活動をやりながら、メンバーはきっと他にもやっている方が集まっている感じがしますので、それぞれお忙しい中でやられているという感じでしょうか。

　次に、運営資金や補助金、特に資金面の話と、それからそれを支えている行政がどうあるのかということについて質問がたくさん来ています。「資金面はうまく回っているのでしょうか」、あるいは、「行政との関係はどうですか、どんな支援をいただいていますか」といった質問があります。漆原さんから、スポンサーのことも含めて、どのように活動資金を得ているのか、先ほど区役所からも助成金を得て透明性が増したというような話がありましたが、透明性という言葉も難しいと思ったので、その辺も含めて説明をお願いします。

○漆原　昨年、港北区の「地域のチカラ応援事業」の補助金を頂きました。ボランティア団体といっても色々な活動団体がある中で、皆さん一生懸命やっていらっしゃる方、お金を稼ぐためなどではないところで活動されている方が本当に多いと思うのですが、先ほどもお話ししたように、なかなか、学校や民間の企業にお話をしに行ったときに、当初は、言い方は悪いですが、門前払いのような対応をされるようなことが多かったです。

それで、今回、昨年そういった補助金と、後援名義ということでお名前をいただいたことで、透明性といいますか、先方からの安心感はいただけたかなというふうに思います。

○山路　公的位置付けがある活動だという感じに受け取られるようになってきたということでしょうか。その結果、信頼も上がっているということでしょうか。

次に有友さんのところはどうですか。資金繰り、運営状況など、さきほど自主財源について「自立するために」とおっしゃっていましたが。

○有友　そうです。平成 24 年３月 31 日で、横浜市の委託事業が終了しますが、その後私たちがどうやっていくのかが今、一番の課題です。あくまでもＮＰＯ法人であり、例えば私たちがやっている、生活支援や軽食などはお金をそんなに高く取れるものではありませんので、そこのところでは営業的なものはできません。またサロンで置いております商品も、スーパーのチラシで何か安いものはないかと一生懸命毎日見て、例えば 100 円のものが 88 円であれば、そこに買いに行き、「いこい」には 100 円で置く。それほどお店より高いものを置かないで、支援になるようなことをやっています。しかしそればかりでは財源ができませんので、私たちにできることといえば、例えば昨年になりますが、６月からモーニングサービスで軽食を提供しています。火曜日１回、それを４回５回やりますと、本当に些細な利益の積み重ねですが、12 月の決算を組んでみましたら 17 万円ぐらいありました。こういった一つひとつの積み重ねで、１年、決算時に 150～160 万上げられればというような考えでおります。

軽食をやっておりますが、それは別会計として、調理室人件費として 400 円/H ぐらいでお願いしています。

サロンでの売上げなどもあります。あとは、先ほど言いましたお互いさま接骨院の方が入ってくださることによって、家賃を１万円ぐらい頂けます。また、雑収入において一番財源になっているのは、自販機です。これはとても有り難いことで、大きな財源になっております。ゆうパックなども扱っています。「チリも積もれば山となる」ではないですが、少しでもそういったことをやって、何とかやれるのではないかと感じております。結局、人件費と言いましても、軽食のほうは別会計をしておりますが、フロアスタッフにおいてもすべて無償では無理なので、お弁当代ぐらいのお金を現在出しております。それを継続していくためには、やはりこういった色々なことを行うのが一番です。

そしてイベントを１回やれば２～３万円になります。そうした行事をスタッフがそれを気持ちよくやってくれています。

色々なアイデアをいただくと、「それはやってみましょう」、「やってみなきゃ分かんないから、やりましょう」というような感じで、今のところはやっております。財源のことはいつも頭の隅っこにあります。

○山路　付随した質問ですが、猪苗代の田圃を所有しているということですけれど、費用や管理について、また、どのくらい訪問しているのでしょうか。もう少し詳しく教えてくださいます

か、という質問が来ています。

○有友　ありがとうございます。あおぞら市をやり始めまして、たまたま猪苗代の方が、「猪苗代のお米もここで販売できないかな」と言ってくださったのがきっかけです。お米を販売する中で、交流も行うことになり、バザーをやるときは来てくださるなど、色々な交流をしています。お米は月に 270 キロから多いときは 300 キロぐらい注文します。そうしますと、当ＮＰＯが一番のお得意様だと思うのですが、田圃も確保する必要があるだろうということで確保してくださっているのです。だから、私たちはお米を購入するだけです。

　とても有り難いです。また色々な野菜を産直してくださり、それをあおぞら市で売っています。今回、アスパラも 4,000 本ほど植えていただいたので、それをこちらへ送ってもらっています。そういったあおぞら市で売れるようなものを考えてくださったり、一緒に交流したりしています。費用は産地のものを買うというだけです。

○山路　青空市を始めてみて、そこで人の付き合いができて、そこから色々なことが、お互いの知恵がわいていく。「やってみないと」ということでしょうか。

○有友　佐藤もそうですが、出身が猪苗代の方が、まだほかにもいます。

○山路　佐藤さん、その辺について何か言いたいことがありますか。猪苗代のことも含めてどうぞ。

○佐藤　猪苗代町見祢集落にあっても、高齢化が進み、後継者もいない。そういうところで若い世代が組織をつくって、村おこしのために空いている田圃等を色々利用して、援農のような形でお手伝いしています。集落を新しい協働の姿に変えようと頑張っています。

○山路　それこそ「お互いさまねっと」になっているということでしょうか。

○佐藤　はい、営農組合 結乃村農楽団です、震災前からのお付合いでお互いに協力・交流をしています。「お互いさまねっと」の存在が大きな刺激になっている、と聞いています。

○山路　やはり個人的な縁をうまく組み込んでいるということでしょうか。漆原さんのところは、先ほど野菜を作って売っているとお話がありましたが、田圃はどのように使用しているのでしょうか。

○漆原　地域の方で、農業をされている方がいらっしゃいますが、スタッフの知り合いの方が農家であり、地域のためであればということで、無償で貸していただくことができ、お手伝いということで指導もしていただいて、昨年から始まりました。

○山路　野庭も農との関係をお持ちですが、これからの展望といいますか、どうなっていくか期待も含めた話を資金的な仕組みも含めてお話しいただけますか。

○勝山　資金については、主催が野庭地区センターということで、野庭地区センターからお金を頂いております。そのほかに、参加者の方から、初めは多いときはお一人 3,000 円頂いましたが、私たちも講座を含めて独立ということも頭に入れながら、できるだけ資金を使わない講座にしようとしており、最終的には参加費を 1,000 円にしております。

　そしてもちろんスタッフも、大概お金の使いどころは施設の使用料か、若しくは講師の謝礼ということに使っておりますので、スタッフもお金を 1,000 円出しております。

　できるだけ講師も私たちスタッフの中の方たちが先生代わりになっておりますので、資金はあまり必要ないかなとは思いますが、ここにいらっしゃる野庭地区センターの方は、きっととても苦労されていると思います。

農業の専用地区に入っておりますので、私たちは直接畑を耕したり収穫したりすることができませんが、農業を支える一員として、作物をやっている方の御苦労を聞きながら、消費者としてできるだけ買って食べることが地産地消の応援ということになっております。

○山路　野庭団地のすぐ隣に農業専用地区があります。そこで専業農家が何十軒か農業をしているので、そこで作られた食材を使っているということです。

もう一つの質問で、講座の今後の展望について。今後も今のような感じでやっていけたらと思っていらっしゃいますか。

○勝山　イベントはあくまでも一つの手段ですが、やはり高齢者の問題、それから人のつながりということをやはり一番重要としながら、どうしたらそういうことができるのかというと、やはりイベントが一つの大事な要素になります。それを意識しながら、皆さんと話を持ちましたけど、やはり行って楽しかった。苦労すれば苦労するほど楽しさが倍増します。「もう嫌だな」と思いながらも、それをやっている相手の顔を見ますと、やはり笑顔が返ってきますので、また「やりましょう」という声も出ております。

色々とクリアしなければならないことがたくさんあります。もちろん資金の面、それから、今まで主催だった地区センターがどのように関わっていただけるのかということも大きな問題です。その前に私たちが何を目標に、何を狙いとし、何を考えながらイベントを行うのかが最初です。「またやりましょう」という声は企画スタッフから出ております。

○山路　引き続きで申し訳ありませんが、「だがしや楽校」という取組の中身をもう少し詳しく教えてください。

○勝山　山形県のほうで広がっているようです。インターネットで見たり本を読んだりした程度ですが、私たちの今行うイベントにはふさわしいかなということで、「だがしや楽校」というものを行っていますが、駄菓子屋は、小さいお店に色々な駄菓子があって、そしてそこに学校帰りの子供たちが寄っては、そのお店の方と話していく。そういうことをヒントに得まして、私たちが企画するものでは、企画するだけではなく、その個人個人が何かいきいきとできることに目を向けました。「だがしや楽校」と言うと少しくすぐったいですけれども、「だがしや楽校」風というところでしょうか。私たちは小規模ですけれども、「だがしや楽校」の内容を見ますと、本当はもっと色々な意味で、目標など裏がたくさんあるようです。自分たちの小さなお店、エリアのところに子供たちが来ながら、また１対１の関係、それから、また他のところの駄菓子屋のお店も行きながら、そしてその人たち自身が発揮できるというようなものを考えまして、「だがしや楽校」的なものをイベントとして付けました。

○山路　「だがしや楽校」は学校の先生が始めた活動であるので、もともとは教育のプログラムでした。子供たちが小さなお店をやってみるといったプログラムでした。しかし、野庭の場合は今のところはどちらかというと「おじいちゃん、おばあちゃん」が小さなお店を出してくださって、そこに子供たちが遊びに来て、それで一緒になって物を作っている。私も一度参加させてもらいましたが、みんなで大きな紙風船を作るということも行っています。だから、体育館のような会場に小さなお店が何十とあるという、そんなイベントだと思っていただければと思います。

公田町団地に限定した質問かもしれないですが、見守り活動を行っていらっしゃるとプライバシーの問題が出てくると思いますが、プライバシーと見守り活動を両立させるところの御苦

労というようなことがあるのか、どのようにクリアしていますかという質問がきています。

○有友　それは本当に大きな問題です。見守り支援員８名と民生委員が４人でやっていますが、家の中まで入っていく見守りは、なかなか難しいところがあります。私たちができる見守り支援の段階というのは、住棟が１号棟から 33 号棟ありますが、その支援員がほとんど２～３棟の間に、２棟は見られるかなというところにバラバラに住んでいます、そこで例えば「洗濯物が今日は干されてない」、「窓が開いたままだ」、「暗くなっても電気がつかない」「新聞が溜まっている」「何日か見かけない」など生活感についての見守りを行っています。見守りを行い、異状を感じたときは、私たちが行っています「安心センター」にみんなで情報を持ち寄り、対応を協議します。

「安心登録カード」というものを作っております。それを提出していただいていると本当に有り難いです。持病、通っている病院名、担当医、電話番号などが書いてあります。一人暮らしの方でお子さんの連絡先が書いてらっしゃる場合に、何かがあったときには、すぐ連絡を取ります。不安な方は登録してくださっております。

「まだそこまでする必要はない」とご自身では思われている方も、私たちが少し心配に感じる方は、外からの見守りをしております。今まで何件かはありましたが、協定を結んでおります桂台地域ケアプラザに連絡を取ったり、栄区の高齢支援課に連絡をしたりして協力しながら見守りを行っています。守秘義務についても、私たちは口外しないし、ご自身で見てほしいという方はしっかり登録をされていますので大丈夫だと思います。今私たちがやっていることに関しては、守秘義務などそういったことは、本当に命が危ないとき、目の前の方、困った方を助けるときはそんなことは言っていられないものだと思います。

○山路　一律にしないで、やれる人の中でやれる方法を取っていく、そういうきめの細かさが必要となるのでしょう。行政がやろうとすると多分そうはいかなくて、やはりある程度のスタンダードを決めてやらざるを得ない。ところが、民間がやると臨機応変にできる。

○有友　そうですね。だから、私たち見守り支援員が会議の中で、自分が見守っている方々の中にランク付けがあって、特に気をつけて日常的に安否を注意する必要のある方、普通にカーテンが開いている、電気をつけてないなどを確認するだけでいい方と、介護事業所等の支援の状況（通所・訪問・配食）、家族の関わり等、お節介にならない範囲に気を付けています。

○山路　もう一つ、この公田町団地への質問が多いですが、お互いさまネットだけＮＰＯ法人になっていますが、ＮＰＯ法人にしなければならなかった理由、あるいは、なることによってこんなことができるようになったというようなことがありますか。

○有友　これは、最初行政はモデル事業として自治会にお話が来ましたけれども、任意団体の自治会では駄目だったので、ＮＰＯ法人を立ち上げる必要がありました。

○山路　いわゆる法人格が必要だったということですか。

○有友　はい、都市再生機構に空き店舗の借入の申し入れになど対して、法人格ということです。それで急きょ、どうしても居場所が欲しいということで平成 21 年に認定を受けました。

○山路　背に腹は替えられない理由があったということでしょうか。ＮＰＯになって、逆に苦しんでいるようなことはありますかという質問も来ていますが。

○有友　これからは苦しみになると思います。やはり財源を考えていかなければならないと思っています。ただ、私たちはこのＮＰＯ法人を設立しておりますが、本当に介護保険サービス等

を受けられる方になれば、行政や地域ケアプラザなどにつなげていきます。その少し手前の見守りを私たちでやっているということなのです。ＮＰＯ法人を設立してスタッフは、私も含めいずれ年を取っていく。何より継続していくことが大事と思って取り組んでおりますので、会計的には難しくても、お弁当代ぐらいは必要というような感じで運営しております。

〇山路　運営する限り、全部手弁当で、無償というわけにはいかない。最低限の経費はしっかり負担していきましょうということでしょうか。それで商売になるという話じゃないでしょうけれど。

〇有友　本当に今、何とかやれるかどうかのところにいます。でも、皆、楽しんでやらなければやっていられないというスタッフばかりですので、何とか頑張れています。

〇山路　次の質問ですが、それぞれに、しがらみなくフラットに人がつながってやっている活動のような気もしますが、既存の連合自治会町内会、あるいは、商店街との関係はどうなっているのかというものです。まず漆原さんから、商店街は東と西に分かれているのですか、その活動を通してつながりは良くなったのですか、あるいは、町内会とはうまくやっているのですか、信頼されていますか、逆に面倒だと思われていませんか。

〇漆原　もともと、先ほどもお話ししたように、私自身自営で、商店街の一員ですが、会の中で町内会に入っている方もいらっしゃるので、そういったところから結局色々な形でつながっていきます。どうしても商店街や町内会ということで、「これは向こうの町内会に任せれば」という感じに受け止められがちですが、やはりそこは地区の人がそこにいれば、人とのつながりということで、垣根をそこで越えられるというようなところは、今までの経験では出てきました。これ不思議とつながりを持たずに、言い方が悪いですけども、しがらみというか、そういうものが、人間ですから色々な形であると思いますが、つながりとしがらみの境目はけっこう難しいとは思いますが、やはり人のつながりということを考えると、どうしても「何とかの会」ということで、そこから脱せられないことは今までけっこうあったような気はします。

〇山路　野庭の場合には、会員の中に個人的な資格で地元組織の方がいるというお話でしたが、関係はいかがですか。

〇勝山　今日、会場にいらっしゃっています。林さんにお話ししていただければと思います。

〇山路　林さん、手を挙げていただけますか。地元の組織の代表のお一人ということですが、林さんのお立場と、それから、この会をどう見ていらっしゃるのか、忌憚のないとことをおっしゃってください。

〇林　私は野庭団地地区の社会福祉協議会の会長をさせていただいております。やはり私たちも担い手が欲しいという中で、この「野庭をあ・じ・わ・う」の活動の中で、地域の皆さんが集まってきて、いわゆる定年を過ぎた方たちを対象にというようなこともあったものですから、そういう中で私たちのボランティアに関わってくれる人がいてくれたらいいなと思い、人探しのために最初は参加させていただきました。

　結果的には、直接、私たちの活動にはつながっていませんが、すごく人材発掘といいますか、色々な活動をされている方を知ったということはとても私たちのために良かったなと思っています。これから私たちの活動の中にそういう方たちが関わってくださって、自分たちの活動がもっと広がって地域が横につながっていったらいいなと思っております。突然だったので、どういうふうに答えていいかわかりませんでしたが。

○山路　すみません。でも、地区社協としても応援し、温かく見守ってくださっているという感じでしょうか。

○林　そうです。地区センターは私たちが活動する上でも場所をお借りしており、そういう意味では協力をいただいておりますので、これからも地区センターがやってくださっていた活動ですけれども、やはり協力体制で色々なことがやっていけたらいいなと思っております。

○山路　実際の中身についてもうひとつ、色々な団体や地域の施設と具体的に結び付いたということはありますか。

○林　子育て支援や高齢者のことに関しては、私たちも常々考えてはいますが、自分たちが考えているのは煮詰まってしまっていて、ほかの人たちの話の中から少し視点が違う指摘をされたときに、とても参考になります。

○山路　ありがとうございます。そういう感じだそうです。有友さんのところは、もうお店が１軒もないということをおっしゃいましたが、商店街がなくなってしまったということでしょうか。

○有友　公田町団地は小高い丘の上にあります。かつては、団地中央のバス停近くにスーパーがありましたが撤退しました。そのあとにコンビニがオープンしましたが、これも撤退しました。

○山路　最後にひとつ、拠点を、自分の場所を持っているのは、今日の発表者の中では「お互いさまねっと」が唯一だと思いますが、拠点を持っているということで、胸を張れるようなことはありますか。

○有友　これは本当に有り難いと思っています。自分のことで申し訳ありませんが、平成 20 年６月 28 日に話が来たときに、民生委員４人、ベテランの方が辞められて、平成 20 年の７月１日から私が民生委員になっております。当初私たちは何をしたらいいのだろうという状況にありました。現在まで一緒に関わっている者がもう一人、佐藤がいますが、拠点でこれらの活動をすることが民生委員としての仕事だと思いました。だからとても有り難い。

　地域交流の場所ができたということは、本当に人との関係づくりには欠かせないです。色々なサロンを月に１回２回やれても、なかなかそこまで長居はできません。ただ、毎日常駐していると、延べ大体 60～70 名の方がそこの場所に来てくださります。

○山路　１日中ですか。

○有友　１日です。軽食を食べにいらっしゃる方が大体 30 人。多いときは 50 食以上出ます。そういった方と、あとはお茶をしに２時、３時頃にいらっしゃる。そういった出入りの方たちの安否確認ができる。あと、全然お顔を知らない方も、「いこい」があるので訪ねてきてくださいます。それで、顔なじみの方が増えていくというのは確かです。

　また皆さんが少しお困りのときに相談にいらっしゃいますので、情報もここに集約される。とても有り難い場所になっております。

○山路　どうもありがとうございました。頂戴した質問はまだありまして、菊名にも「ＤＶＤが本格的でびっくりしたが、どのように作っているのか」とか「実はこんな活動をしたいけれど、何かそのヒントになることを教えてほしい」などたくさんありますが、時間が来てしまいました。

　最後に、今日のお話を総括して、終わりにしたいと思います。

　今日は地域の人の力というものを改めて感じました。まず、コアになる人が 10 人、20 人いる

だけで、これだけの活動が地域でできていくということに、まずびっくりしました。そのときに、やはり何か幾つかポイントがあるような気がします。どの地区も背景になっている課題は深刻です。高齢化の問題があったり、あるいは地域のコミュニティの希薄さがあったり。でも、誰もが笑顔になれるような活動をしていらっしゃいます。深刻な問題を深刻に解かない、といいますか、そこをもう少し楽しみに変えながらやっているということがあるのかなと思います。

二つ目ですが、それぞれの方が自分たちの「強み」をよく御存知なのではないでしょうか。「地域にこんな人たちがいて、ここに声をかければこんなものが見えてくる」というようなことをよく御存知で、その自分たちの強みをうまく使っているという感じがします。漆原さんのところは、若者が何人かで「何ができる？」というところから始めながらも、彼らの持っている新しいセンスだったり、メディアとの付き合いだったりをうまく使って、あのようなスポーツ新聞の特集号を出してしまう。普通ではなかなか発想がないですけれども

三つ目には、企画をしている人たちがただ企画だけしているのではなくて、自分たちも参加している。あるいは、自分たちが成長していく。それで、参加される方もお客さんではなくて、その人たちもこっちに引っ張り込んで、その人たちの成長を促すような中から新しい人材を発掘している。する側とされる側じゃなくて、まさに「お互いさまねっと」です。きっと、「される」側の人にも、気がついたら何か企画する側、次に成長する側に回ることを常に狙っているのではないでしょうか。それで、参加者の成長があることで活動の継続性なり展開性を持っているのではないかなというふうに感じた次第です。

併せて、そのときのつながるテーマが大切だと感じました。「食」が非常に大切なつながるテーマだと改めて思いました。「食」は奥が深いです。地産地消の問題もあれば、正に「食」は文化ですし、農業の問題もあれば自然環境の問題もある。色々なところとつながっていけるテーマだなと思いました。

それから「子ども」。公田町団地は高齢者が多いということで話にはでてきませんでしたが、ほかの二つの地区を見ると、子どもを間に置きながら色々人たちがつながるということをうまくやっている。やはり子どもは地域の宝というふうに改めて感じました。

それともう一つ、今日私が発見したつながる種は「年中行事」です。季節感のある年中行事みたいなものをうまく真ん中に置くと、色々な人たちがつながれるのかなと思った次第です。

実は、昨年のこの会は大変評判が良かったのです。手前味噌でございますが、終わった後、この会で出てきたことについて、たくさんの方から質問される、そういう会でした。今回も、ポイントになるものがたくさん入っていたのではないかと思います。こういう会も、年に１回やっているだけではなく、もっと身近なところで人と人の色々なノウハウを深く知って、自分たちの活動に活かしていくような、そういう機会を、区役所などが盛んにやり始めているように思います。本日のチラシを見ても、市民局と健康福祉局の共催になっておりますが、地域の問題というのは、縦割の中に置けません。福祉のことも市民生活のことも一緒に解いていくような姿勢が必要なわけです。そのためにはやはり、地域に近いところ、特に区役所の方々がたくさん応援に来てくださっているというのは非常に心強い。区役所の中でもどんどん盛り上げていっていただきたいですし、そういう中に市民が参加する機会が、より多元化・多様化したらいいなと感想を持った次第です。

ちょうど４時になりました。皆さん、どうもありがとうございました。